

イデックスオイルレポート ~For a week~

株式会社新出光

【NY原油 概況】

●2日のWTI原油は、前日比0.1ドル安の57.32ドルとなった。年明け初の取引は軟調地合いに終始した。石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」の増産などを背景に需給緩和懸念が強まり、相場は2025年、約20%下落。OPECプラスは昨年11月末の会合で、サウジアラビアなど有志8カ国による26年1~3月期の増産停止を再確認した。

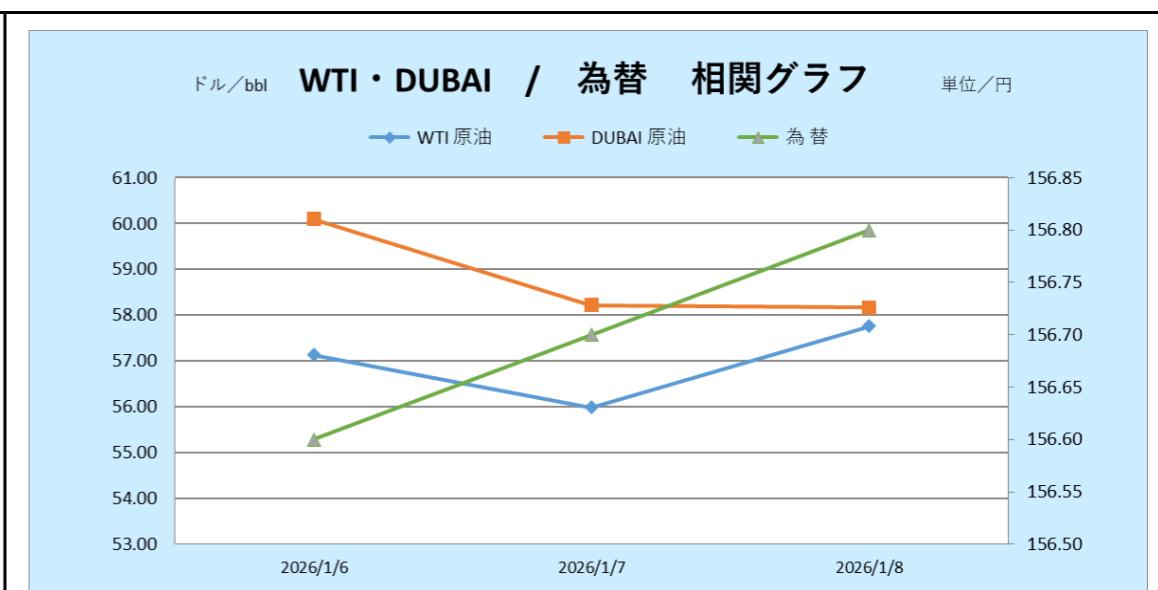
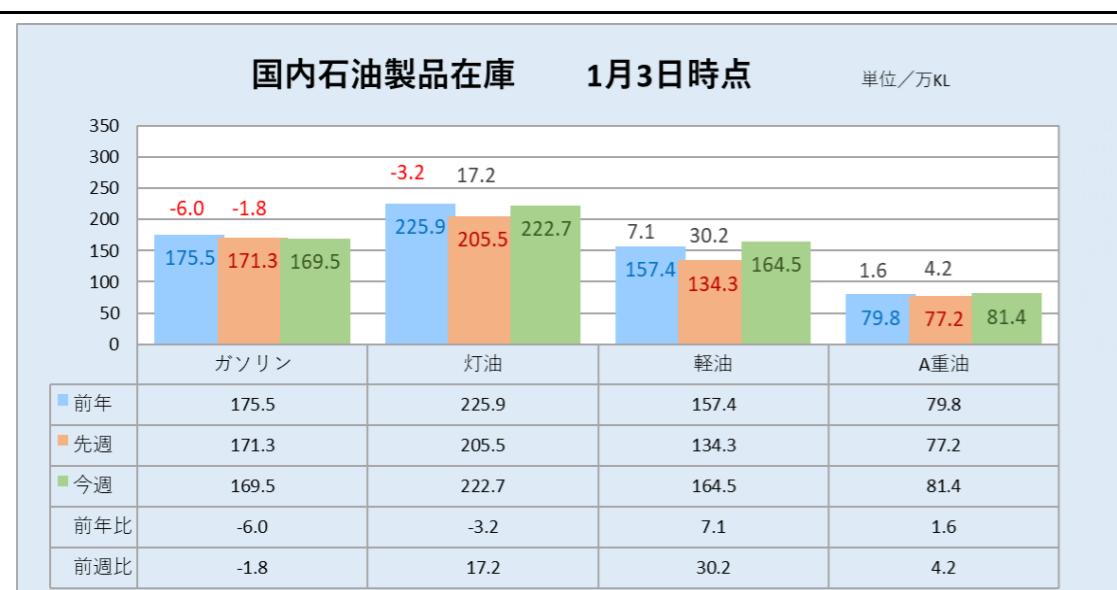
●5日のWTI原油は、前日比1.00ドル高の58.32ドルとなった。米国は3日、ベネズエラに対して大規模な攻撃を実施し、ベネズエラのマドゥロ大統領を拘束。米軍に拘束されたマドゥロ氏は5日、ニューヨークの連邦地裁に初出廷し、麻薬密輸などについて無罪を主張した。地政学的リスクへの警戒感が高まり、原油は買いが優勢となった。

●6日のWTI原油は、前日比1.19ドル安の57.13ドルとなった。2026年の国際石油市場は大幅な供給過剰に傾くとの調査報告が再び意識されたほか、1月2日までの週の米原油・ガソリンの在庫が増加したとする市場予想が重しとなった。

●7日のWTI原油は、前日比1.14ドル安の55.99ドルとなった。トランプ米大統領は6日、ベネズエラの暫定政権が、「制裁対象となっている原油3000万~5000万バレルを米国に引き渡す」とSNSで表明。「市場価格で販売され、その収益はわたしが管理する」と投稿し、米国とベネズエラ国民に還元する意向を明らかにした。

●8日のWTI原油は、前日比1.77ドル高の57.76ドルとなった。米国土安全保障省は7日、大西洋とカリブ海で南米ベネズエラの石油取引に関連し、計2隻の石油タンカーを拿捕(だほ)したと発表。このうち大西洋で差し押されたのはロシア船籍だった。

2025/1/9 12:00現在 WTI原油 58.20ドル 為替 1ドル 158.14円



【次回価格変動予想】

1/15~1/21

【市況総括】

ガソリン	➡	-1.5 ~ -1.0
灯油	➡	-1.5 ~ -1.0
軽油	➡	-1.5 ~ -1.0
A重油	➡	-1.5 ~ -1.0
LSA	➡	-1.5 ~ -1.0

※原油コスト「-1.5円~ -1.0円」

※補助金 前週比±0円

※現時点での予測です。

「今週」今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+0.5円」、補助金は「±0円」、都合、「+0.5円」の改定となった。
 ガソリン: 12/31暫定税率廃止済
 その他: 3月末暫定税率廃止予定

「来週」次回の元売り改定は、原油コストは「-1.5円~ -1.0円」、補助金は「±0円」、都合「-1.5円~ -1.0円」の改定予測となっている。

【次世代エネコラム】

<三菱重工、アンモニアから水素分離の新技術 低温環境で燃料費を抑制>

三菱重工業は10日、アンモニアを水素と窒素に分解する際、従来に比べて低い温度で分離できる技術の実証に成功したと発表した。日本触媒と共同開発した特殊な触媒を使った。分解時の燃料費を抑えられるほか、高温分離に必要なレアメタル(希少金属)の触媒を使わずに済み、低コストを実現できる。2030年度にも実用化を目指す。

三菱重工が開発した蒸気加熱方式は、液体アンモニアを気化させたあと、450~500度の蒸気で加熱して、水素と窒素を分離する。この温度であれば工業プラントなどの排熱を利用するため、燃料費を抑えやすい。従来は700度と高温状態にして水素と窒素を分離する方式が一般的だった。この方式ではレアメタルのルテニウムを触媒に使う必要があり、安定調達にも課題があった。

三菱重工が開発した技術では従来と比べて、運転コストを2割ほど下げられるという。1日あたり0.25~2.5トン程度の水素製造を想定しており、中小口向けの需要を想定する。脱炭素の実現に向けて、燃焼しても二酸化炭素(CO₂)が出ないアンモニアや水素は次世代の燃料として期待がかかる。水素はマイナス253度で液化するのに対して、アンモニアはマイナス33度で液化するため、海外などからの長距離輸送に適している。

同日の記者会見で、三菱重工のGXセグメント企画管理部の鹿島秀一郎部長代理は「水素供給網が整っていない日本などの地域では需要地で水素に分離する方式が需要が高い」と説明した。アンモニアを使いながら水素活用を促進させるため、アンモニアの分解コスト低減に取り組む。